

薬害エイズとの闘い

◆ 2011年6月23日(木)

● 午後1時30分～午後3時00分

場所／西宮上ヶ原キャンパス
図書館ホール

◆ 講師／^{いえ}家 ^{にし}西 ^{さとる}悟 氏

(元大阪HIV薬害訴訟原告代表、前参議院議員、元衆議院議員)

*本講演会では手話通訳/パソコンテイクによる情報保障を予定しています。
また、録音、録画を行い図書館資料として保存しますのでご活用下さい。



■講演内容

- | | |
|----------------|---------------|
| 1、血友病について | 血友病の歴史と病状など |
| 2、血友病と薬害エイズの関係 | 血液製剤を介しての薬害被害 |
| 3、社会との関係と人権 | マスコミ報道など社会の対応 |
| 4、国と行政・政治 | 国・行政の対応 |
| 5、薬害肝炎問題 | 血液製剤を介しての薬害被害 |

■講師紹介

- 1960年 京都府に生まれる
1964年 県立奈良医大病院で血友病と診断され、医師より「20歳まで生きられれば…」との宣告を受ける
1967年 小学校入学。根っからの明るさで友達も多く自転車、野球と駆け回っていたが、病気により年間80～100日、学校を休まざるを得なかった
1973年 京都府宇治市立西宇治中学に入学するも、関節内出血で入院を繰り返し、3年生の時はほとんど学校へ行くことは出来なかった
1976年 読み書きも満足に出来なかったが、形式的に中学の卒業証書だけは貰えた。この年の10月から大阪の身体障害者訓練所で時計修理の勉強をする
1979年 京都の電気メーター会社に就職したが、3年後に倒産。その後血友病友の会運動に携わる
1981年 米国でエイズが発生
1982年 長年の内出血による左膝関節変形手術のため非加熱血液製剤を多量に使用
1983年 厚生省に対し「安全な血液製剤の供給を」という要望書を提出
1989年 薬害エイズ訴訟提訴
1995年 HIVの活動で知り合った知加子と結婚。この年、大阪HIV薬害訴訟原告代表となる
1996年 3月和解が成立(厚生大臣は菅直人さん)
10月衆議院総選挙奈良1区・近畿比例代表区から立候補・初当選
2000年 衆議院総選挙近畿比例代表区で2期目の当選
2003年 衆議院総選挙に出馬せず
2004年 参議院議員選挙比例区で当選
2006年 参議院財政金融委員長
2009年 参議院決算委員長
2010年 参議院議員選挙比例区で落選

総合テーマ：

Culture of Human Rights

一人権文化を育む

(2010～2014年度)

関西学院大学主催
春季人権問題講演会

「“比較しない”三原則」 ～無理せず・卑下せず・押し付けず ・カミングアウトから見えてきた私的幸福論

◆ 2011年6月27日(月)

● 午後3時10分～午後4時40分

場所／神戸三田キャンパス
II号館201号教室

◆ 2011年6月28日(火)

● 午前9時00分～午前10時30分

場所／西宮上ヶ原キャンパス
第5別館4号教室

◆ 講師／^さの **笹野みちる氏** (ミュージシャン)

*本講演会では手話通訳/パソコンテイクによる情報保障を予定しています。
また、録音、録画を行い図書館資料として保存しますのでご活用下さい。

■講演内容

後に人権派参議院議員となる権力志向な母は、憲法を教える大学教授。源氏物語が好きでノンポリ数学教師の父は、口数少なく気弱。ベビーシッターも兼ねる住み込み研修生のような人々が入れ替わり立ち代わり常に何人かいるような家庭環境のもと、なんとなく矛盾がいっぱいで生きづらい幼少期を送りつつ、いつしか「真実ってなんやろう？」みたいなことを激しく求めはじめた私。メジャーデビュー後は「女らしさ」の期待と圧力にとまどい、自分らしさを求めて同性愛者としてカミングアウト、すると今度は自ら「正しさ」への呪縛にからめ捕られウツ状態に…。不細工で不器用な人生を通しつつ、それでも見えてきた「私的幸福論」をたたき台に、「皆が生きやすい社会」とは何かということまで、考えをシェアできればと思っています。

■講師紹介

1967年京都府生まれ。同志社大学経済学部卒業。在学中の1988年に「東京少年」のボーカルとしてピクチャーよりメジャーデビュー。バンド解散・ソロデビューの後、'95年、幻冬舎より『Coming OUT!』を出版、ベストセラーに。日本のメジャーシーンでは初めてレズビアンとしてカムアウトしたことで話題を呼んだ。その後、急激な“カミングアウト・ロー”に襲われ鬱状態となりメジャー活動停止。地元京都で「京都町内会バンド」を結成し、マイペースなインディーズ活動をはじめ。現在は東京在住にて、介護ヘルパー・保育助手などしつつ、各地で弾き語りソロライブも行っている。他著書に『泥沼ウォーカー』PARCO出版。

総合テーマ：

Culture of Human Rights

一人権文化を育む

(2010～2014年度)



「人災としての東北大震災」 ～地球の上で人間は何をしているのか?～

◆ 2011年11月14日(月)

● 午後3時10分～午後4時40分

場所／神戸三田キャンパス
Ⅱ号館101号教室

◆ 2011年11月15日(火)

● 午前11時10分～午後0時40分

場所／西宮上ヶ原キャンパス
関西学院会館レセプションホール

◆ 講師／桃井和馬氏

(写真家、ジャーナリスト)

*本講演会では手話通訳パソコンテイクによる情報保障を予定しています。
また、録音、録画を行い図書館資料として保存しますのでご利用下さい。

■ 講演内容

「津波」という天災に襲われた東北地方。しかし津波は同時に福島原発事故をも引き起こしました。原発事故は「想定外の津波によって引き起こされた災禍」と片付けて良いのでしょうか？

東京電力の副社長・飯沼和男氏は会見で「原発事故は人災」と言い切りました。

封印されたその発言をキーワードに、近代以降続いた「科学万能信仰」に切り込みます。

■ 講師紹介

1962年生まれ。写真家、ジャーナリスト。

これまで世界140カ国を取材し、「紛争」「地球環境」などを基軸に、独自の切り口で「文明論」を展開。講演・講座の他、テレビ・ラジオ出演多数。第32回太陽賞受賞。著書に「すべての生命(いのち)にであえてよかった」(日本キリスト教団出版局)、「妻と最期の十日間」集英社新書・他多数。共著最新刊は「3・11マルチダウン」(凱風社)。恵泉女学園大学客員教授(人文学部)。

総合テーマ：

Culture of Human Rights

一人権文化を育む

(2010～2014年度)



「民政移管」後のビルマ (ミャンマー) 開発事業がもたらす環境・人権への悪影響

◆ 2011年12月1日(木)

● 午後4時50分～午後6時20分

場所／西宮上ヶ原キャンパス
B号館101号

◆ 講師／^{あき}秋 ^{もと}元 ^ゆ由 ^き紀 氏
(ビルマ情報ネットワーク ディレクター)

*本講演会では手話通訳・パソコンテイクによる情報保障を予定しています。
また、録音、録画を行い図書館資料として保存しますので活用下さい。

■講演内容

ビルマ(ミャンマー)では昨年未から、総選挙の実施、議会の招集、政治囚の釈放と、長年待たれた民主化が始まったことを期待させる動きが続いている。こうした展開を受け、今後、新体制下のビルマへの外国投資や開発援助が増え、資源開発やインフラ整備が急速に進む可能性もある。

しかしビルマでは、天然資源の採掘やインフラ整備などの大型開発事業が、周辺住民に深刻な被害をもたらす事例が後を絶たない。国軍が圧倒的な影響力を保持しているビルマでは、工事が行われる際、国軍の指揮下で強制移住や強制労働、土地の接収などが行われることもある。同国で続く民族紛争や難民流出にも、開発事業が深く関わっている。9月末、イラワディ川に計画されていた巨大ダム建設が凍結されたことは日本でも大きく報道されたが、ビルマにはこのプロジェクトのほかにも問題とされる開発事業が多数あり、国際社会から注目されないまま進められている。

講演では、事例を通じてビルマでの資源開発の実態を明らかにする。また、日本政府や企業の関与にも触れ、日本にいる私たちにできることを考える。

■講師紹介

上智大学法学部在学中、在日ビルマ人の難民認定申請を支援する弁護団の事務局を務めたことがきっかけでビルマの民主化問題を知る。その後渡米し、2000年ジョージ・ワシントン大学ロースクールを卒業。ニューヨーク州およびコロンビア特別区の弁護士資格を取得し、ビルマでの天然ガス開発によって人権侵害を受けた現地住民が起こした「ユノカル訴訟」などで原告側弁護団に参加。その後もビルマの開発問題や国際金融機関との関係について調査を続ける。

著書に「Post-Nargis Analysis: The Other Side of the Story」(Burma Medical Association et al, 2008年)、「Opportunities and Pitfalls: Preparing for Burma's Economic Transition」(Open Society Institute, 2006)、共著に「人権で世界を変える30の方法」(合同出版、2009年)など。日本語訳を担当したベネディクト・ロジャーズ著「ビルマの独裁者タンシュエ」が白水社から今秋刊行予定。

ビルマ情報ネットワーク (<http://www.burmainfo.org>) は、「きょうのビルマのニュース」や「今週のビルマのニュース」などを通じ、ビルマ情勢に関する資料を広く公開するほか、報道関係者や国会議員への情報提供も行う。

総合テーマ：

Culture of Human Rights

一人権文化を育む

(2010～2014年度)

